コロナ禍における
地域福祉活動ヒントブック

～今、地域で取り組めること～



社会福祉法人　松阪市社会福祉協議会

はじめに～

新型コロナウイルス感染症の拡がりは、人と人が互いに距離を取り、接触する機会を減らすこととなりました。このため地域における福祉活動やボランティア活動は休止や延期などの活動自粛を余儀なくされました。

閉じこもりによる高齢者の虚弱化の進行や社会的孤立の深刻さなどが増しています。一方でこのような状況は、誰かとつながっていること、誰かを支えたり支えられたりしていることの大切さを改めて私たちに教えてくれました。

一進一退の感染状況が続く中、感染防止に配慮しつつ、新たな方法や様々な工夫によって、つながりを継続・再開している取組が生まれ始めました。

今回それらの取組を含めて、新型コロナウィルス感染症拡大防止に配慮した地域における福祉活動やボランティア活動を再開・実施する際の留意点を整理しました。

これらを参考に、地域の感染状況等を勘案しながら創意工夫をこらして、感染拡大に配慮した福祉活動やボランティア活動に取り組んでいただければ幸いです。

【参考資料】

＜厚生労働省＞

・新しい生活様式について
・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮して通いの場の取組を実施するための留意事項について
・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮して実施する介護予防・見守り等の取組例について

＜全国社会福祉協議会＞

・新型コロナウィルス感染拡大防止に配慮した地域住民等による福祉活動・ボランティア活動の進め方。
・未来の豊かな“つながり”のための全国アクション

＜阪南市社会福祉協議会＞

・コロナとうまく付き合うための　地域ふくし活動て・び・き

＜港区社会福祉協議会＞

・コロナ過の地域活動事例ヒントブック

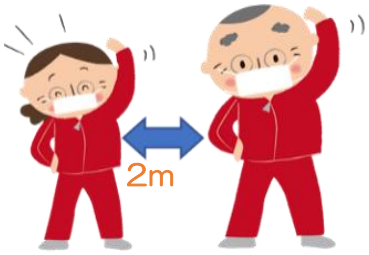
＜さわやか福祉財団＞

・『NEXT～心と心をつなぐ工夫と取り組み～』



地域における福祉活動・ボランティア活動における
新型コロナウィルス感染症拡大防止の留意点

１．大切にしたい５つの「共通ルール」



感染予防のため、どんな活動においてもスタッフおよび参加者に共通して守っていただきたい事項です。

①健康管理の徹底

以下の場合は活動への参加を控えましょう。

・自宅で検温し、37.5℃以上の発熱または平熱を超える体温（＋１℃程度）ある場合

・息苦しさや強いだるさ、咳や咽頭通などの風邪症状がある場合

②手洗い・手指の消毒

活動前や活動中、石けんでの手洗いとアルコール等での手指消毒を実施しましょう。

手洗い場にはハンドソープ・ペーパータオル・アルコール消毒などを配置しましょう。

帰宅後も、手洗い・消毒を徹底するよう周知しましょう。

③マスクの着用

活動中は原則として、マスクの着用を徹底しましょう。

※熱中症防止のため水分補給に留意しましょう。マスクをしているとのどの渇きが分かりにくいので、適宜声をかけて給水を促しましょう。

④接触しない対人距離の確保　（心の距離はぐっと近づけて）

人と人の間隔が原則２ｍ（最低１ｍ）の接触しない対人距離を確保しましょう。

対人距離が確保できる会場レイアウトや座席配置等をお願いします。

⑤参加者の連絡先情報の把握

当日の参加者の連絡先を把握するために名簿等を用意しましょう。



２．活動別に取り組んでいただきたいこと

つどいの場　（例）会議、サロン、施設内での交流など

①定期的な換気

３０分に１回を目安として、定期的な換気に努めましょう。

②参加人数の制限

会場定員の約半数を目安に参加人数を制限し、対人距離の確保・密集防止をおこないましょう。　例）広い会場を使う、時間を区切って２部制にする等

③共用で触れる器具・設備等の消毒

複数人が触れる部分（ドアノブ、テーブル、椅子の背もたれなど）を定期的に消毒しましょう。

④熱中症の予防

熱中症予防のため、個々で飲料水等を用意し、適切な室温調整をおこないましょう。

⑤大きな声を出すときはマイクを使用

マイク設備がある場合、大きな声を出さなくて済むように準備しましょう。

訪問型の活動　（例）見守り声掛け、配食ボランティア、困りごと支援など

※居室内での活動について、可能なものは屋内に入らず玄関先等での対応を検討しましょう。

①事前に体調チェック

相手先の体調を事前に確認し、発熱や風邪症状などがある場合は訪問を控えましょう。

②手指消毒・マスク着用の徹底

利用者・訪問者と共に手指消毒、マスク着用の徹底をお願いしましょう。
複数の訪問先がある場合は、１軒ごとに訪問者の手指消毒をおこないましょう。

③対面活動は短めに

利用者と対面する際は、できるだけ短い時間で活動を終えるようにしましょう。

つながるための５つのヒント

１．手紙やポスティングでつながる



活動団体に関する新聞や広報誌、季節のはがきなど、紙とペンがあれば書くことができます。また手書き・手作りのものは差出人のあたたかな想いも伝わるので、受け取った人が「気にかけてくれている」という気持ちを感じてもらえます。

２．電話や声かけ、見守りでつながる



誰かとおしゃべりしたくなったら、自分から電話をかけてみるのはどうでしょう。相手も同じような思いでいるかもしれません。たとえ用事がなくても、日常のささいな出来事を伝えあうことで互いに元気になれるかも。

３．ソーシャルディスタンスでつながる



晴れた日には公園でのおしゃべりやウォーキング活動、農業体験での交流など、青空の下での活動はいかがでしょう。
感染対策をしっかりとりながら、安心して参加できる活動をみんなで考えましょう。

４．オンラインツールでつながる



感染リスクを避ける手段のひとつとして、携帯電話やパソコンなどのＷｅｂでつながるオンラインツールが注目されています。
「難しそう」と思われるかもしれませんが、この機会にチャレンジしてみませんか。

５．各地の取組事例を参考にしてつながる

コロナ感染症予防のため、これまで取り組んできた活動が自粛される中、各地にてさまざまなアイデアで活動してきた人たちの取組がみられました。
それらの取組をヒントに私たちが『今、地域で取り組めること』を共に考えていきましょう。